松三中だより

碧空（へきくう）

（濃みどりの空）

二本松第三中学校

号　外

令和４年　３月１３日

校長 大越 吾都臣（おおこし あつおみ）

「ああ、二本松第三中学校　ここにわれらの理想あり」

令和４年度　第４２回卒業証書授与式（令和５年３月１３日月曜日実施）

どんな時も「ゆたかに」
何があっても「たくましく」

「濃みどりの空　安達太良の　山に若さの　こだまして」

校歌の歌い出しにあるこの一節によく似合う、春めいた今日の佳き日、多くのご来賓の皆様に見守られながらの「卒業証書授与式」が挙行できますこと、言葉に表すことのできないほどの喜びを感じております。

令和２年４月６日、感染症の不安も大きかった時期、幼さの残る新入生として入学式に臨み、生徒代表の菅野彩陽（すげのさや）さんは、「新しい友だちとの出会いはとてもたのしみなことの一つです。友だちの良いところをたくさん見つけ、学習面でわからないところを教えあったり、困ったときには助けあったりできるようになりたいと思います。」と誓いを立ててくれました。それからの３年間その誓いを忠実に守り、コロナ禍の活動制限がある中でも、互いに励まし合い、知恵を絞りながら助け合い、苦しいときも笑顔を忘れることなく過ごしてきました。その陽気な笑顔に私たち大人が勇気づけられていました。マスクを外し、卒業証書を受け取る顔に「こんなにも成長していたのだ…」と、３年間という時間の重みを感じさせられました。

私事になりますが、今年度をもって定年退職となります。色々な意味、思いのある卒業式となりました。初任校である二本松第三中学校での最後の卒業式。当時の教え子が親となり後ろで見守る卒業式。感染の拡大により休校となった時期に行われた小学校の卒業式のリベンジ。自分が願っていた全てのことが達成できたこと、愛情をいくらでも注げる生徒に出会え、教師として幕を下ろせるこの奇跡に体が震えるほどの感動を感じております。

保護者・地域の皆様には、そんな思いを受け止めていただきながら、このコロナ禍の歯がゆい思いを抑え、学校を信じ、ご支援いただいたこと深く感謝申し上げます。お陰様をもちまして、宝石のように輝く、たくさん思い出を胸に刻み、本日を迎えることができました。しかしまだまだ、未熟なところも多く、皆様の支援が必要かと思いますが、保護者、地域、学校の絆の太さが本校の「強み」でもあります。今後も温かい目で見守っていただけたら幸いです。

卒業生ほぼ全てが「進学」という計画を立てていますが、義務教育を終えるということは、社会に出る力が備わったとみなされます。一人の人間としての自覚と責任をもたされます。そして、人としてこの世に生を受けた以上、社会に貢献する義務が生まれます。悩む事も多くなるかもしれません。　しかし、二本松三中の３年間で培った、三中プライドを武器に「どんな時も　ゆたかに」「何があっても　たくましく」前を向き未来に向かってしかりと歩んでもらいたいと強く願い、式辞といたします。

【「第４２回卒業証書授与式　校長式辞」より】

卒業生の皆さん、先生にとって皆さんが、教員生活最後の卒業生となりました。

その最後に皆さんに出会えた奇跡、それは先生自身皆さんに会うための３２年間だったような気がします。みなさんを一生忘れることはないでしょう。いつまでも見守っています。その活躍が耳に届くことを楽しみにしています。卒業おめでとう。

♪もうすぐ今日が終わる　やり残したことはないかい
親友と語り合ったかい　燃えるような恋をしたかい
一生忘れないような出来事に出会えたかい
かけがえのない時間を胸に刻み込んだかい♪（かりゆし５８「オワリはじまり」より）